

写真ニュース

最後の「夏」に向け、みんなの心が一つに繋がった日

中体連の「夏季大会」・吹奏楽部の「東部地区吹奏楽コンクール」に向けた“壮行会”を実施しました!!

3年生にとっては、3年間の部活動のしめくくりとなる最後の「夏」。
支えてくれたすべての人の思いを胸に、3年間で最高の試合そして演奏をしてきてください。
思い出に残る夏を!





選手たち全員で円陣が組まれた



そして・・・みんなの心が一つに繋がった (Our Team)



3年前の夏。幼いころから甲子園を夢見て野球を続けていた長男は、代表の切符をかけた県大会決勝で延長戦の末に敗れ、とうとう甲子園の土を踏むことができなかった。

当時小学6年生だった次男は、兄の姿をスタンドから見届け、泣きながら私にこう言った。

「僕が兄ちゃんの代わりに、お母さんを甲子園へ連れて行ってやる」

それまで野球は絶対にやらないと言って、キャッチボールもしたことのない弟にも、兄の悔しさが伝わったのか。思いもかけない一言だった。

次男は、中学入学と同時に野球部に入った。だが、ルールも、ボールの投げ方も分からない。練習は厳しい…………。

正直、いつまで続くのかと思っていた。

だが3年間、一度もレギュラーになることはなかったが、よく頑張った。私は、兄のお下がりの少し色あせたユニフォームでグラウンドを走る次男を見るのが好きだった。

そして巡ってきた中学最後の夏。彼は高校では野球を引退すると言っている。

(いいよ。いいよ。3年間楽しませてもらったから。高校へ行ったら、また新しいことを頑張ってくれたら良い。)

12年続けてきた野球の背番号をつけるのもこれが最後。少し寂しさを感じながら、今、「11」を背中に縫い終えたところだ。